

## 第24回ショパン国際ピアノコンクール in ASIA アジア大会(ホール審査) 総評 ソロアーティスト部門

### ●審査員 A

1. よく考えて曲を選択すること。若いピアニストの方にとっては、ショパンの初期の作品のほうが、理解しやすいと思います。初めて取り組むショパン作品が幻想曲へ短調やバラード第4番、舟歌とならないようにしましょう。
2. どのような感情を表したいのか、演奏する曲の主要な性格は何なのかということをお問ひしましょう。
3. 曲の構成、和声(長調・短調、減和音、そしてそれらの関係性)、クライマックス、終止形を分析しましょう。
4. 音符だけでなく、休符、ブレス、テンポ、強弱、アーティキュレーション記号、その他作曲家が残した指示などを含め、楽譜を細かく読み込みましょう。
5. ルバートを乱用しないこと。ルバートする際も、作品の基本の拍感を感じましょう。
6. 特にショパンが長いカンティレーナの旋律を書いている部分でフレーズが細切れにならないように気をつけましょう。
7. ペダルを乱用ないように、また和声の移り変わりがモーツァルトの音楽のようにクリアに聴こえるようにしましょう。
8. 休符も音楽の重要な一部だということを忘れないように。
9. フィンガーレガートも忘れないように。初めはペダルなしで、できるだけ指だけで繋げる練習をしましょう。
10. 旋律を声楽的に捉え、どの音も始まりから終わりまでしっかり聴くようにしましょう。
11. バスラインを含めた伴奏形を聴くことも忘れないようにしましょう。
12. 各声部のバランスにも気を配りましょう。
13. 解釈を行う上で、強弱、アーティキュレーション、音色、バランス、そして時にはテンポにおいてもコントラストをつけることはとても重要だということを覚えておきましょう。

まず何よりも、ショパンの指導と演奏において、シンプルさがもっとも重要だということを忘れないようにしましょう。ピアノであってもフォルテであっても、朗々とした豊かで上品な響きは、ショパンの美学において重要な要素です。また、声楽的なフレージングも、ショパンの語り口に非常に特徴的といえるでしょう。ピアノでもっともっと歌ってください。

### ●審査員 B

最終審査での演奏、お疲れ様でした！今後、アーティストとして、自分らしさを磨かれていかれることを願います。そして、是非興味深いレパートリーを開拓してみてください。きっと将来、皆さんにとってのトレードマークとなるでしょう。

### ●審査員 C

・本日のピアニストの方々は、とてもしっかりとした個性をお持ちでした。体の使い方や、特にソナタの急速楽章におけるレガートの欠如は気になったものの、どの曲も論理、想像力、そして安定さをもって演奏されたと思います。

・是非、各作品の構成をより細かいところまで深く分析したり、規模の大きな作品ではテンポの関連性を追求したり、また自分自身の考えをどのように表現するかについて更に工夫を重ねてみてください

## ●審査員 D

コンクールでは、限られた時間でどのように伝えるかということも課題です。演奏する曲の順番なども含め、様々な制約の中でどうしたら伝わる演奏ができるか、レクチャーなどを聴講して参考になさってもよいかもしれません。

## ●審査員 E

・皆さんよく練習して指がよくうごくのですが、その品質が悪いです。重さをのせてしんをもってフルコンの弦をきちんとならしたいですね。上すべりせずに鍵盤を深くとらえた上で音をあてるのではなく、音の魂を奏でるのです。ただ速くレースのように弾いても無意味なことです。

・バランスに気を配って下さい。左右バランスはもちろん和音のバランスも。Sop が大切だけど他は適当でいいということはありません。パートごとにちがうタッチを使うことで全体のバランスを整えていきます。遅筋をきたえてコントロールの効く指をつくりましょう。

・p, f, >, < などいつも同じように作るのではなく、今どのセクションにいてどのような音楽を必要とされるかよく理解してください。それによって表現まで変わってきます。設計、構成ありきです。

・左の扱い、特に Bass とその進行&ハーモニーはショパンならではの世界です。右のメロディだけで音楽をつくらないこと。豊かな和声を感じて表現につなげていかななくてはいけません。

## ●審査員 F

全体の水準はまずまずと思えました。ただソロ部門の最高峰のレベルかと問われると少し？でした。とても丁寧にキチンと仕上げられる方が多かったです。バラードやソナタやポロネーズなどの持つそれぞれの独自の世界感が希薄で、表面的に綺麗に仕上げている印象でした。特に後期の作品に求められる精神的な深さはショパンの作品の経験値が問われると思います。またこの作品は「自分はこのようにイメージしこのような音色にまとめたい」という自己主張ももっと必要になります。貴重なレッスンを受けて学んだ後に、最終的には自分の音楽で勝負しなくてはなりません。今後の成長を期待しております。

## ●審査員 G

以前よりレベルが上がってきて、演奏の粒もそろってきたと思います。しかし、もっと上を望みたいのも、正直な実感です。ソロアーティスト部門が本コンクールの最高レベルの部門であることが世間で認知され、来年以降も真剣に臨む参加者の皆様がたくさんご参加されるよう願っております。